



# 国文学研究資料館 2020

National Institute of Japanese Literature



権中納言定家

## Contents

はじめに	3
概要	4
研究概要	6
日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画	7
事業概要	14
国際交流	23
大学院教育	25
公開データベース	26
教員一覧	27
参考データ	29
人間文化研究機構	30

# はじめに

国文学研究資料館

館長 ロバート キャンベル

年度の始め、そしてわたくしがこの文章を書いている間にも、国文学研究資料館では「初めて」のことが天から降るように立て続けに続いています。新型コロナウイルス感染症が未曾有の速度で猖獗をきわめ、その直撃で世界中の人々が時々刻々と生活を変容させざるを得ません。多くの人々が命を落とし、あるいは健康を害し、生活の基盤を失っていく現状を前に、悲嘆措くところを知らない心境になります。日本でも、美しい春の空に暗雲が重くたれ込めていました。

感染拡大当初からの数ヶ月間、大学共同利用機関である国文研は何をなすべきか。見えづらけれど、数ヶ月先までどのような行動計画を立てれば良いものか。言い換えれば、1000年を超える日本列島の暮らしと心の記録を収集整備する一方、学習機会も移動をとまなう研究活動も極端に狭まったこの時期に、どう舵を切ればよいか問われています。

年度末に当たる3月に来館者と教職員の健康を守るべく方策を講じ、幸い、非常事態宣言発出中に発症による健康被害を免れることができました。新年度には、状況に応じながら、あらゆる事業にあたって感染予防対策をいっそう強化しなければなりません。当館の年間事業計画は、海外はおろか、都外への出張もままならない現実に直面しており、そのなかで、いや、だからこそ古典籍と記録史料を資源として整備し共有するプロジェクトを進め、しっかりと着地させなければならない思いでいます。

その間、わたくし自身、3年前の秋にドイツから一時帰国し立川を訪ねてくださった多和田葉子さんの言葉を思い出していました。多和田さんは、海外で暮らし、日本との間を自在に往き来しながら作家活動を続けてこられた方です。2017年11月に国文研主催の第41回・国際日本文学研究集会にお招きして、わたくしと対談をさせていただきました。

対談のなかで多和田さんは、グローバル化を加速させる社会に何を望むのかについて言及しました。人々が、分野も見方も信条も異なっているのは当然として、直に膝を交えて語り合い、離れた後も言葉で繋がり、いつかふたたび会って交流することを前提とするゆえに重層的で豊かな市民社会が実現するものだ、と主張しました。往き来し、交信するゆるい時空のことを「半他人の社会」と言い、その醸成を唱えるのでした。「つかみどころのないような半他人の繋がりも、けっこう重要なんじゃないかと思うんです……半他人の集まりがないと、社会的意見みたいなものがつくられる場がなくなって、個人と国家だけになってしまいそう」、という具合に対談の一節を締めくくりました。

国境が閉鎖され、行動半径も著しく制限された今春のドイツで多和田さんは次の言葉を綴りました。「……毎日入ってくる新しいニュースを追うだけで必死で、いつの間にか遠い未来を考えることができなくなっている。(中略) ニュースは現代を毎日薄切りにして投げつけてくるだけで、歴史的つながりが見えてこない」(「ドイツの事情」、村上陽一郎編『コロナ後の世界を生きる』所収。岩波新書、2020年刊)。

注目したいのは、コロナ下で未来が考えづらいう上に、「歴史的つながりが見えてこない」という指摘です。過去と未来が同一線上にあるはずなのに、過去から学ぶべきことが押し寄せる出来事と変化によって視界から抜け落ちてしまうことを恐れているのです。

国文研は、歴史的典籍約15万点、画像のコマ数でいうと約2000万コマ分の画像と書誌を「新日本古典籍総合データベース」に収め、公開しています。大学も図書館も相次ぎ閉鎖を告げる春に、国内外からアクセス数が顕著に増えました。コロナ禍という災害のさなかにこそ、日本人の歴史的経験と心情をとどめた古典籍を資源化させ、オープンソースとして活用可能なインフラに構築することの重要性を嘯みしめています。その一点に関して、我々教職員は思いを一つにしているところです。

今年度は、10年間に及ぶ「歴史的典籍ネットワーク事業」を進める一方、その成果を基盤に後継プロジェクトである「データ駆動による課題解決型人文学の創成」を企図しています(日本学術会議マスタープラン2020・重点大型研究計画)。昨年度の概要に予告しましたように、オンライン共同研究と学術情報の交換を柱とする「日本古典籍国際コンソーシアム」を立ち上げ、国内外にある教育研究機関や資料保有機関、学協会などから多くの参加申請をいただいています。国境を越えることが容易ではない時代に、次世代の研究者と資料専門家の育成に力を尽くしていきます。日本文学研究の中核拠点では無論、上記のオンライン事業と並行して、地域社会に保存されている原典の調査とそれに基づく共同研究の継続を果たします。社会との連携を深め、資源活用新たな地平を拓くことで、歴史的つながりを眼前に、人々の希望に繋げることを目標とする1年にしたいと考えています。



# 概要

## 国文学研究資料館のめざすもの

国文学研究資料館は、国内各地の日本文学とその関連資料を大規模に集積し、日本文学をはじめとする様々な分野の研究者の利用に供するとともに、それらに基づく先進的な共同研究を推進する日本文学の基盤的な総合研究機関です。創設以来40年以上にわたって培ってきた日本の古典籍に関する資料研究の蓄積を活かし、国内外の研究機関・研究者と連携し、日本の古典籍を豊かな知的資源として活用する、分野を横断した研究の創出に取り組みます。

## 沿革

- 1966年12月 日本学術会議が「国語・国文学研究資料センター(仮称)」の設置を政府に勧告
- 1970年 9月 学術審議会が「国文学研究資料センター(仮称)」の緊急設置を文部大臣に報告
- 1971年 4月 文部省に、国文学研究資料の施設の整備に関する調査等の経費計上
- 1972年 5月 国文学研究資料館創設(管理部、文献資料部、研究情報部)  
文部省史料館(1951年設置)が、国文学研究資料館の組織に組み入れられる
- 1977年 6月 開館式挙行
  - 〃 7月 閲覧サービス開始
- 1979年 4月 整理閲覧部設置
- 1987年 4月 マイクロ資料目録及び当館蔵和古書目録データベースのオンライン検索サービス開始
- 1992年 4月 国文学論文目録データベースのオンライン検索サービス開始
- 2002年11月 創立30周年記念式典挙行
- 2003年 4月 総合研究大学院大学文化科学研究科日本文学研究専攻が設置され、基盤機関となる
- 2004年 4月 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国文学研究資料館となる  
法人化に伴い、館内組織を改組
- 2008年 3月 立川市緑町の現在地に移転
- 2013年 4月 古典籍データベース研究事業センター設置
- 2014年 4月 古典籍データベース研究事業センターを古典籍共同研究事業センターに改組
- 2019年 2月 多摩学術文化プラットフォーム「ぶらっとこくぶんけん」設立

## 施設について

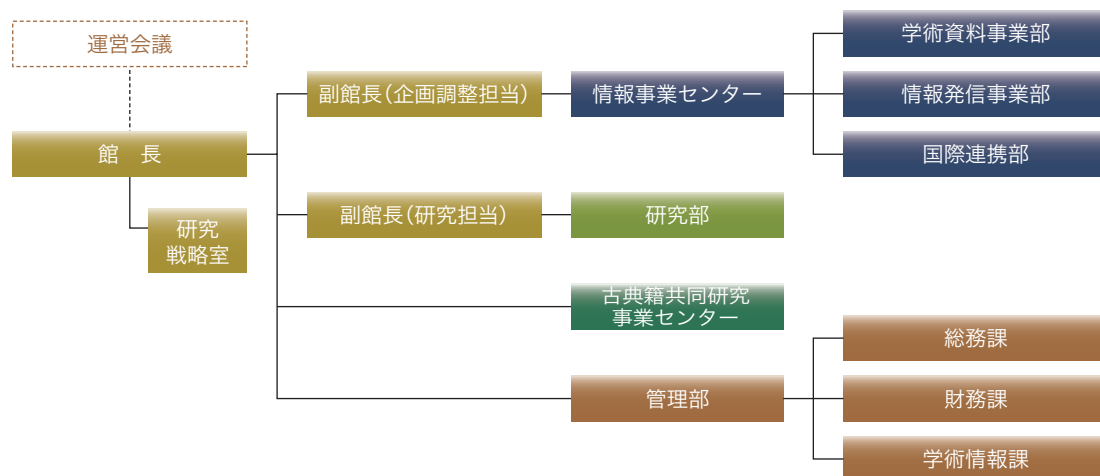
当館は、東京都区部の過密解消や、東京への諸機能の過度の集中の抑制などのために、1989年8月及び1993年6月の「国の機関等移転推進連絡会議」において移転が決定し、2008年3月に品川区から立川市に移転しました。

施設は、バリアフリー対応とし、来館者の利便性を考慮した設計となっています。

来館者が利用するスペースとして閲覧室と展示室があります。閲覧室は参考図書すべて開架にしており、広々としたスペースでゆったりと閲覧ができます。また、展示室では当館所蔵の古典籍による通常展示等を行います。



## 組織図



## 運営会議

### 館外委員

安達 淳	情報・システム研究機構国立情報学研究所副所長
飯倉 洋一	大阪大学大学院文学研究科教授
江川 雅子	一橋大学大学院経営管理研究科特任教授
大谷 節子	成城大学大学院文学研究科教授
金 文京	京都大学名誉教授
小長谷有紀	日本学術振興会監事
佐々木孝浩	慶應義塾大学附属研究所斯道文庫長
鈴木 俊幸	中央大学文学部教授
高岸 輝	東京大学大学院人文社会系研究科准教授
高埜 利彦	学習院大学名誉教授
谷 知子	フェリス女学院大学文学部教授
十重田裕一	早稲田大学文学学術院教授

### 館内委員

入口 敦志	研究部教授(研究主幹)
海野 圭介	研究部教授(研究主幹)
落合 博志	研究部教授
神作 研一	副館長(研究担当)
藤實久美子	研究部教授
山下 則子	副館長(企画調整担当)
山本 和明	研究部教授(研究主幹)
渡辺 浩一	研究部教授(研究主幹)

## 役職員

館長	ロバート キャンベル
副館長(企画調整担当)	山下 則子
副館長(研究担当)	神作 研一

### 研究部

研究主幹	入口 敦志
研究主幹	海野 圭介
研究主幹	山本 和明
研究主幹	渡辺 浩一

### 情報事業センター

情報事業センター長(併任)	山下 則子
学術資料事業部長(併任)	入口 敦志
情報発信事業部長(併任)	渡辺 浩一
国際連携部長(併任)	海野 圭介

### 総合研究大学院大学文化科学研究科

日本文学研究専攻長	藤實久美子
-----------	-------

### 古典籍共同研究事業センター

センター長(併任)	山本 和明
事務室長	河野 浩

### 管理部

管理部長	山本 慎一
総務課長	杵山 広樹
財務課長	進藤 光
学術情報課長	早川 知宏

# 研究概要

日本文学及びその関連領域の資料を学術基盤として整備するとともに、人文学の一環としての日本文学研究の一層の推進を目的として、外部の研究者が参加する共同研究委員会を設置して、以下の共同研究を行っています。

## ■ 基幹研究

研究の基盤となる日本文学及びその関連資料に関する基礎研究を進展させる基幹研究を3課題実施しています。

- **十九世紀地域文化拠点の総合的研究 —廣瀬家を中心として—** (2019年度～2023年度)  
研究代表者：入口 敦志 国文学研究資料館・教授
- **地方協創によるアーカイブズ保全・活用システム構築に関する研究** (2019年度～2021年度)  
研究代表者：西村 慎太郎 国文学研究資料館・准教授
- **日本語の歴史的典籍データベースの検索に関する総合的研究** (2015年度～2023年度)  
研究代表者：相田 満 国文学研究資料館・准教授

## ■ 特定研究

日本文学研究を推進させる課題に取り組む特定研究を3課題実施しています。すべての課題は公募によるものです。

## 公募（一般）

当館の所蔵資料(原本資料・マイクロフィルム資料等)を活用した日本文学及び関連諸分野を含む創造的で幅広い研究。若手研究者の参加を奨励しています。

- **軍記および関連作品の歴史資料としての活用のための基盤的・学際的研究** (2018年度～2020年度)  
研究代表者：井上 泰至 防衛大学校・教授(国文学研究資料館・客員研究員)

## 公募（若手）

若手研究者による明確な目標と適切な研究計画を有する、日本文学に関する創造的研究。

- **近世前期における和刻本仏書の基礎的研究** (2019年度～2020年度)  
研究代表者：木村 迪子 お茶の水女子大学・基幹研究院研究員(国文学研究資料館・客員研究員)

## 公募（課題）

包括的なテーマの下に先進的な個別研究を行う研究分担者を募集し、それらの交流の中から新たな研究の方向を創出することを目的とした研究。

- **上野学園大学日本音楽史研究所寄託資料の基礎的研究** (2020年度～2022年度)

# 日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画

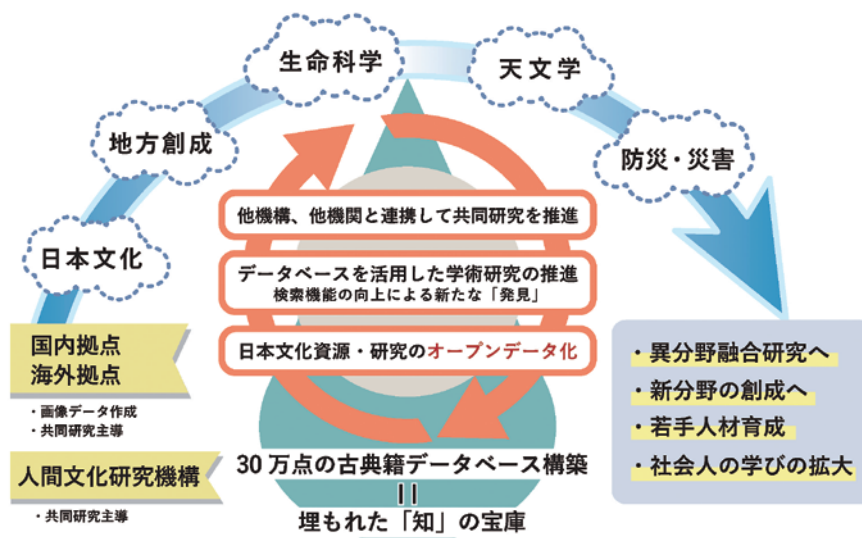
(略称：歴史的典籍NW事業／NIJL-NW project)

本事業は、当館が中心となり、国内外の大学等と連携して、古典籍約30万点の全冊画像化を行い、当館が構築してきた古典籍の書誌データベースと統合して、自在に画像を検索できるデータベース「新日本古典籍総合データベース」という研究基盤を作り、その画像を用いて国際的な共同研究のネットワークを構築するものです。

こうした古典籍の画像化は、文化財危機(原本資料の破損・劣化、自然災害による消失等)への対応ともなり、文化財の後世への継承にも貢献することになります。

本事業における共同研究では、データベースを活用し、人文学分野にとどまらず、自然科学分野までを包括する文理融合による国際的な規模での共同研究を推進してまいります。

## NIJL-NWプロジェクト概要図



## 実施計画

2014年度から2023年度までの10年間で実施します。国際的に共同研究を展開し、併せて共同研究のテーマと連動させながら古典籍に関するデータベース「新日本古典籍総合データベース」の拡張を進めていきます。

古典籍画像は、分野別に収集し、順次公開する予定です。

### ①日本語の歴史的典籍DBの構築

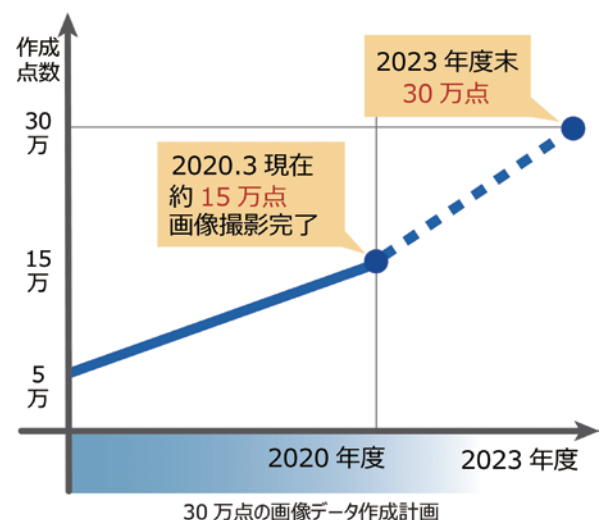
- ◆30万点の画像データの作成
- ◆新日本古典籍総合データベースの運用
- ◆検索機能の向上化・多言語化対応

### ②国際共同研究ネットワークの構築

- ◆異分野融合を踏まえたネットワークの拡充

### ③国際共同研究の推進

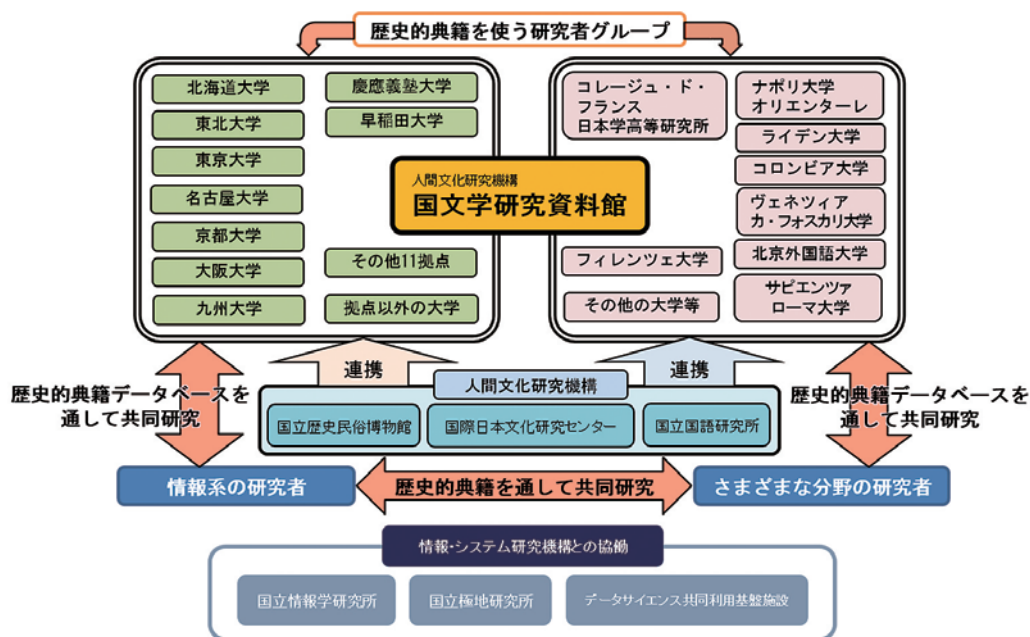
- ◆異分野融合研究の醸成
- ◆「総合書物学」の創出
- ◆文献観光資源学研究的の推進



## ■実施体制

2014年4月に、当館に本事業を推進するために古典籍共同研究事業センターを設置しました。当館のほか、人間文化研究機構の各機関や、国私立大学に設置する20拠点及び国内外の研究機関、並びに国立情報学研究所、国立極地研究所等と連携して本事業を実施しています。

古典籍共同研究事業センターには、センター運営委員会、日本語歴史的典籍ネットワーク委員会、国際共同研究ネットワーク委員会、拠点連携委員会、資料活用連絡協議会を置き、学識経験者や研究者コミュニティの意見を踏まえて、本事業を推進しています。また、センター運営委員会の下にNW事業実施委員会を置くことで、当館の全ての教員が本事業の全体を把握し、役割と責任を分担しつつ事業を推進していくための体制となっています。



国際共同研究ネットワークのイメージ

## ■2019年度の画像情報作成状況(総点数 約3万7千点)

### ●拠点大学：デジタル撮影

北海道大学(産業、理学)、東北大学(宗教、医学、理学)、筑波大学(宗教、風俗、地理、言語)、京都大学(宗教等)、大阪大学(医学等)、神戸大学(地理、医学、理学等)、広島大学(文学)、九州大学(医学等)、同志社大学(文学等)、関西大学(文学)

### ●拠点大学：デジタル撮影(内製)

筑波大学(言語、宗教)、名古屋大学(医学、文学)、京都大学(宗教、歴史、文学)、広島大学(文学)、九州大学(理学)、東京大学(産業、文学)

### ●専門性の高い分野別収集：デジタル撮影

実践女子大学(文学)、茨城大学(歴史)、専修大学(文学、思想)、中津市歴史博物館(医学)、東京書籍附設教科書図書館東書文庫(教育)、日本体育大学(武学武術)、龍野市歴史資料館(諸芸)、国文学研究資料館(歴史)、宮内庁書陵部(歴史)、東京海洋大学(産業)、ポーラ文化研究所(風俗)

### ●専門性の高い分野別収集：デジタル撮影(内製)

東京藝術大学(芸術)、東京書籍附設教科書図書館東書文庫(教育)、清光山西厳寺(宗教)、一橋大学(産業)、日本体育大学(武学武術)、ポーラ文化研究所(風俗)、国文学研究資料館(芸術、歴史)、研医会図書館(医学)、横浜国立大学(教育)

### ●マイクロフィルムからの画像作成

東北大学附属図書館所蔵マイクロフィルム(武学武術、理学、数学)、宮内庁書陵部所蔵マイクロフィルム(歴史)、当館所蔵マイクロフィルム(文学)

### ●既存画像の提供

東京大学(教育、芸術)、小泉吉永氏(往来物倶楽部)(教育)、信州大学附属図書館(地理)、日本学士院(理学等)、大阪大谷大学図書館(文学)、仙台市民図書館(歴史等)、秋田大学附属図書館(産業)、奈良県立図書館(地理)、国立国会図書館(全般)



# 新日本古典籍総合データベース

歴史的典籍NW事業の推進基盤となる「新日本古典籍総合データベース (Database of Pre-Modern Japanese Works)」は2017年より公開されています。

文学分野のみならず医学・理学分野等あらゆる分野の古典籍画像も多く含まれており、人文学以外の研究者との異分野融合研究を醸成する研究基盤として、国内外の大学等と連携のもと、今後は古典籍30万点を擁する大規模画像データベースとなる予定です。

公開サイト

<https://kotenseki.nijl.ac.jp/>



## 新日本古典籍総合データベースの概要と特長

唯一の日本古典籍ポータルサイトとして、当館が長年蓄積した豊富な書誌と国内外のさまざまな機関が所蔵する古典籍のデジタル画像が利用できます。

Point1 探しやすい	Point2 引用しやすい	Point3 活用しやすい
タイトルやキーワードでの検索のほか、画像に付けられたタグ、本文テキスト、おすすめキーワード、ピックアップコンテンツなど、多彩な検索ができる！  ▲検索トップページ <a href="https://kotenseki.nijl.ac.jp/">https://kotenseki.nijl.ac.jp/</a>	電子データに付与される国際的識別子、DOI(デジタルオブジェクト識別子)の採用により、永続的なアクセスを保証。 論文などに引用したいときに便利！  <b>DOI</b> <a href="https://doi.org/10.20730/200021913">https://doi.org/10.20730/200021913</a> 変換 <b>新日本古典籍総合データベース</b> <a href="http://kotenseki.nijl.ac.jp/biblio/200021913">http://kotenseki.nijl.ac.jp/biblio/200021913</a> データベースのURLが代わってもDOIは変わらず、リンク切れが発生しない  <a href="https://www.doi.org/">https://www.doi.org/</a>	デジタルアーカイブの新しい規格、IIIF (International Image Interoperability Framework : トリプルアイエフ)を採用。 異なるデジタルアーカイブ間での画像共有や再利用が容易！  ▲画像ビューア  <a href="http://iiif.io/">http://iiif.io/</a>



利用にあたっては、パンフレットをご参照下さい。  
「新日本古典籍総合データベース パンフレット(クイックガイド付)」  
<http://www.nijl.ac.jp/pages/cijproject/>  
からダウンロードできます。

こちらから  
パンフレットPDFを  
ご覧いただけます



## 新日本古典籍総合データベースで公開中の画像例



奈良絵本・大職冠

[ならえほん・たいしょかん・成立年未詳]

室町時代後半～江戸時代前期につくられた絵入りの「奈良絵本」のひとつ。金泥、銀泥、朱などが使われた極彩色で、藤原鎌足の物語が描かれている。

●DOI : <https://doi.org/10.20730/200016463>

# オープンデータの取り組み

当館では、古典籍をもっと自由に研究・活用いただくため、当館所蔵資料のオープンデータ化を進めています。その取り組みの一つとして、情報・システム研究機構の国立情報学研究所及びデータサイエンス共同利用基盤施設人文学オープンデータ共同利用センター（以下「CODH」）との協働により、CODHのサイトから以下の3種類のデータセットを公開しています。

いずれのデータも「クリエイティブ・コモンズ 表示 - 継承 4.0 国際 ライセンス(CC BY-SA)」の下に提供していますので、この条件に同意される方であれば、どなたでもご利用いただけます。

当館オープンデータのサイト [https://www.nijl.ac.jp/pages/cijproject/data\\_set\\_list.html](https://www.nijl.ac.jp/pages/cijproject/data_set_list.html)

## ●日本古典籍データセット

【点数】 3,126点 ※2020年3月現在

重要文化財や貴重書を含む国文学分野のほか、当館で収集した医学や理学、産業など多分野の古典籍、味の素食の文化センターが所蔵する料理本等で当館が撮影した古典籍を含んでいます。

【構成】 ①古典籍画像データ ②書誌データ ③本文テキストデータ ④タグデータ

【公開サイト】 <http://codh.rois.ac.jp/pmjt/>

## ●日本古典籍くずし字データセット(旧名称：日本古典籍字形データセット)

【データ数】 4,645文字種 684,165字 ※2019年1月現在

国立国語研究所所蔵資料と味の素食の文化センター所蔵資料を含む28点の資料から字形データを採取しています。

【構成】 ①原本補正画像データ ②文字座標データ ③字形画像データ ④作業報告文書

【公開サイト】 <http://codh.rois.ac.jp/char-shape/>

## ●江戸料理レシピデータセット

【点数】 107種類

43種類は現代語訳データ有り、更にそのうち34種類は現代レシピデータがあります。

【構成】 ①原本画像データ ②翻刻テキストデータ ③現代語訳データ ④現代レシピデータ

【公開サイト】 <http://codh.rois.ac.jp/edo-cooking/>

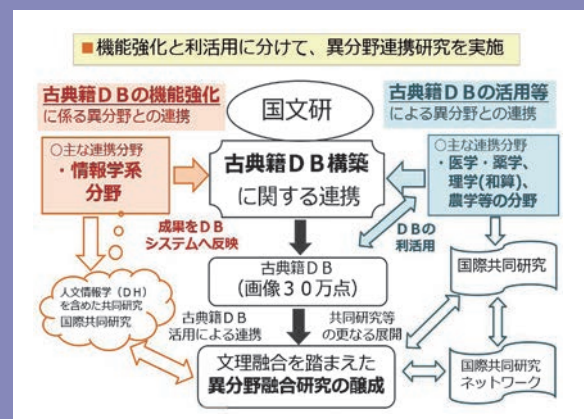
(CODHでの公開のほか、「クックパッド江戸ご飯」でも公開中です)

# 共同研究

本事業においては、国内外の多様な分野の研究者が参加した研究ネットワークを作り上げることによって、膨大に集積された日本古典籍に新たな研究の光を当て、それらを知的資源として活用していくことを目標としています。この目標に向け、すべての分野を網羅する30万点の日本古典籍の全冊画像データベースの構築に国内の諸大学・機関と共同して取り組むとともに、先導的な共同研究を実施し、広く多様な分野の研究者に参画を促しています。

平成26年の開始以降、海外の研究者を中心に日本文化を総合的に研究するテーマに取り組む、日本古典籍を広い視野から利活用する「国際共同研究」、様々な分野の日本古典籍に散在する情報の活用を目指し、理系研究者等とともに取り組む「異分野融合共同研究」、人間文化研究機構の国立歴史民族博物館、国立国語研究所、国際日本文化研究センターと連携して実施する「機構内連携共同研究」、検索機能の高度化等を推進するための「研究開発系共同研究」など様々な形での共同研究を実施しています。

これらの共同研究では、若手や女性研究者、さらには国外研究者の参画も配慮し、これまでに40を数える分野の研究者と協働するほか、国際的評価を受けた共同研究も輩出しています。



## 《2020年度実施共同研究》

### 国際共同研究

#### ● UCバークレー所蔵古典籍資料のインсталレーションとキュレーション

研究代表者：ジョナサン ズイッカー カリフォルニア大学バークレー校東アジア言語文化学部・准教授

#### ● 中近世日本における知の交通の総合的研究

研究代表者：ダヴァン デイディエ 国文学研究資料館研究部・准教授

#### ● 古典芸能における身体—ことばと絵画から立ち上がるもの—

研究代表者：ボナヴェントゥーラ ルペルティ

ヴェネツィア カ・フォスカリ大学アジア・地中海アフリカ研究学科日本学研究科・教授

### 異分野融合共同研究

国立極地研究所、茨城大学、味の素食の文化センター等と連携し、防災、食、教育など、幅広く展開する予定

### 機構内連携共同研究

#### ● 異分野融合による「総合書物学」の構築

統括代表者：藤實 久美子 国文学研究資料館・教授  
各研究ユニット

##### ● 古代の百科全書『延喜式』の多分野協働研究

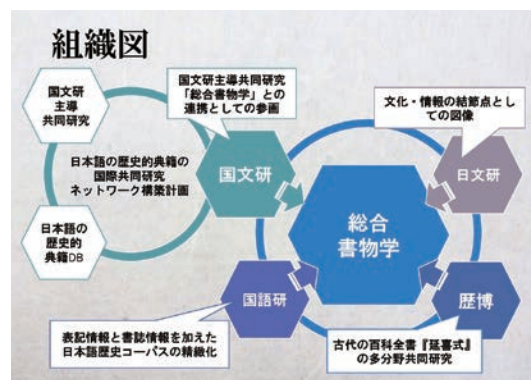
研究代表者：小倉 慈司 国立歴史民俗博物館・准教授

##### ● 表記情報と書誌形態情報を加えた日本語歴史コーパスの精緻化

研究代表者：高田 智和 国立国語研究所・准教授

##### ● 文化・情報の結節点としての図像

研究代表者：山田 奨治 国際日本文化研究センター・教授



### 研究開発系共同研究

#### ● キーワード抽出に関わる総合的研究(公立はこだて未来大学)

#### ● 検索機能の高度化に係る総合的研究(国立情報学研究所、人文学オープンデータ共同利用センター)

#### ● 「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」における典籍の全文テキスト化に関する検討協力(凸版印刷株式会社)

このほか、東京大学、奈良先端科学技術大学院大学等と連携して、テキスト共同作成ツールの開発、撮影技法やビューアの開発などに取り組むこととしています。

さらに今年度から、上述の区分とは別に海外拠点の一つである大英図書館と「メタデータ作成及び情報共有化における国際基盤構築に関する研究」に取り組む予定です。これには、研究者だけでなく司書も参加し、大英図書館で撮影した画像に現場で書誌を完成させるというこれまでにない共同研究の形です。

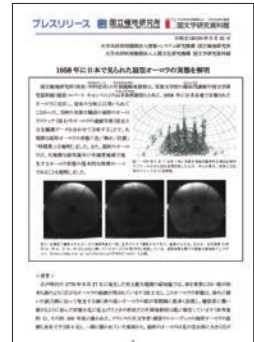
# 研究成果の発信及び広報活動状況

共同研究の成果や本事業の活動状況について、広く社会の理解を得るため、プレスリリースや、国際研究集会のライブ配信、市民参加型の取り組みを中心に活動を行っています。

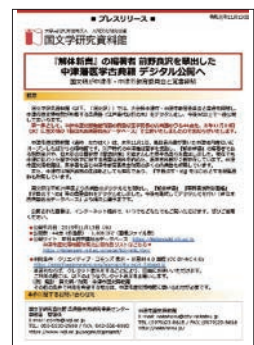
## 2019年度プレスリリース

当館及び共同研究先の機関と連携した研究成果等のプレスリリースを積極的に展開しています。

- 2019年5月21日(火) 1958年に日本で見られた扇型オーロラの実態を解明(国立極地研究所)
- 2019年7月10日(水) 「くずし字」の認識に世界のAI研究者・技術者が挑戦—全世界的コンペティションをKaggleで7月から開催—(情報・システム研究機構、データサイエンス共同利用基盤施設、国立情報学研究所)
- 2019年7月24日(水) 複数の原料から復元に成功! 古代の甘味料「あまつら」の試食体験イベントのご案内(立命館大学)
- 2019年9月13日(金) 「日本文化とAIシンポジウム2019 ～AIがくずし字を読む時代がやってきた～」11月11日に開催、参加申込スタート(情報・システム研究機構、データサイエンス共同利用基盤施設、国立情報学研究所)
- 2019年9月27日(金) 東京藝術大学の貴重古典籍約560点をデジタル公開へ 藝大附属図書館所蔵古典籍を国文研でデジタル化(東京藝術大学)
- 2019年11月13日(水) 『解体新書』の編著者 前野良沢を輩出した中津藩医学古典籍 デジタル公開へ 国文研が中津市・中津市教育委員会と覚書締結
- 2020年1月29日(水) 和食文化の断絶と継承、国文研でシンポジウムを開催—古代の甘み、幻の甘味料「甘葛煎」試食体験も—(立命館大学)
- 2020年3月10日(火) 国文学研究資料館とポーラ文化研究所が協力・連携し、化粧文化に関する資料をWEB公開へ(ポーラ文化研究所)
- 2020年3月13日(金) 日本最古の天文記録は『日本書紀』に記された扇形オーロラだった(国立極地研究所、総合研究大学院大学)



5月21日リリース



11月13日リリース

## 当館主催のシンポジウム等(海外でのイベント開催)

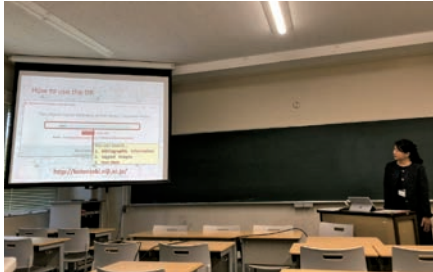
- パリ・デイドロ大学でシンポジウム「中近世における知の交通」(Circulation et production des savoirs entre le Moyen âge et l' époque d' Edo)をフランス国立高等研究院東アジア文明研究センター(CRCAO)と共同で開催しました。(2019年9月9日(月))
- ローマ・サレジオ大学ドン・ボスコ図書館で研究集会「古典芸能における身体」(The Body in Japanese Traditional Performing Arts)を開催しました。(2019年9月24日(火))
- 第5回「日本語の歴史的典籍国際研究集会」を開催しました(2019年11月15日(金))。各パネルの発表要旨をウェブサイトに掲載し(和文・英文)、当日の様子はインターネット上でライブ配信を実施しました。



国際研究集会

## その他の活動状況

- 筑波大学で開催された第3回ヨーロッパ日本研究協会日本会議(The 3rd EAJS Conference in Japan)で「一七世紀の絵巻と絵入本」(Picture Scrolls and Illustrated Books in 17th Century Japan)というパネルテーマで発表を行いました。(2019年9月14日(土)～15日(日))



第3回EAJS日本会議

- ブルガリア・ソフィアで開催された第30回日本資料専門家欧州協会年次大会(The 30th EAJRS Conference)において「『新日本古典籍総合データベース』の最新動向と国文学研究資料館のオンラインサービス」(The recent progress in the Database of pre-modern Japanese works and the other NIJL's online services)と題したプレゼンテーションを行いました。また、ブース・ワークショップ展示を行いました。(2019年9月18日(水)～21日(土))



第30回日本資料専門家欧州協会年次大会

- 日本近世文学会春季大会(2019年6月8日(土)～9日(日))鶴見大学記念館)及び中世文学会秋季大会(2019年10月26日(土)東北大学)において、「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」を紹介するブース展示を行いました。



歴史的典籍NW事業の紹介ブース

- 第21回図書館総合展に昨年に引き続き出展しました。3日間で1200人以上がブースを訪れました。(2019年11月12日(火)～14日(木))パシフィコ横浜

- 「日本文化とAIシンポジウム2019～AIがくずし字を読む時代がやってきた～」を一橋講堂においてCODH、NIIと共同で開催しました。100万文字を超えた「日本古典籍くずし字データセット」の紹介のほか、「新日本古典籍総合データベース」のデモなどのブース出展を行いました。また、「Kaggle」において、2019年7月～10月の期間CODH、NIIと共同で開催した「くずし字認識チャレンジ：千年に及ぶ日本の文字文化への扉を開く」と題する全世界的なコンペの受賞者の授賞式も行われました。(2019年11月11日(月))



「Kaggle」受賞者の授賞式

- 国際共同研究の成果を発信する英文オンラインジャーナル“Studies in Japanese Literature and Culture” Volume 2を2019年3月22日(金)、Volume 3を2020年3月31日(火)に刊行しました。



URL:<https://www.nijl.ac.jp/pages/cijproject/sjlc.html>

- 本事業を紹介するニュースレター「ふみ」を2回(12号、13号)発行しました。ホームページからもPDF版の配信をしています。



URL:[http://www.nijl.ac.jp/pages/cijproject/newsletter\\_fumi\\_new.html](http://www.nijl.ac.jp/pages/cijproject/newsletter_fumi_new.html)

# 事業概要

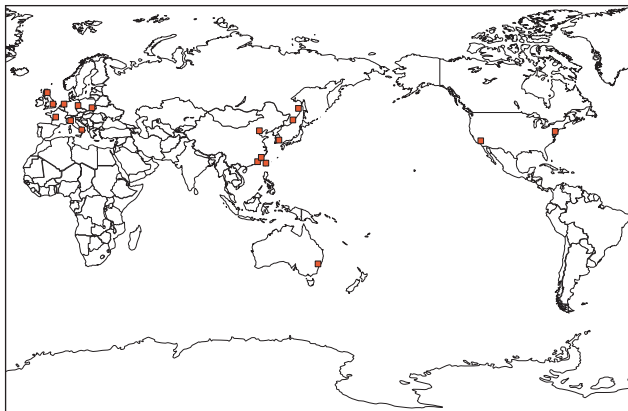
## 事業の目的

国内外に所蔵されている日本文学及び関連資料の専門的な調査研究と、撮影及び原本による収集を行い、得られた所在・書誌情報を整理・保存し、日本文学及び関連分野の研究基盤を整備しています。また、これらを様々な方法で国内外の利用者に提供するとともに、展示・講演会等を通じて社会への還元を行っています。

## 1 調査収集

全国の大学等に所属する研究者と連携し、日本文学及び関連する原典資料(写本・版本等)の所蔵先に赴き、書誌的事項を中心とした調査研究を行っています。

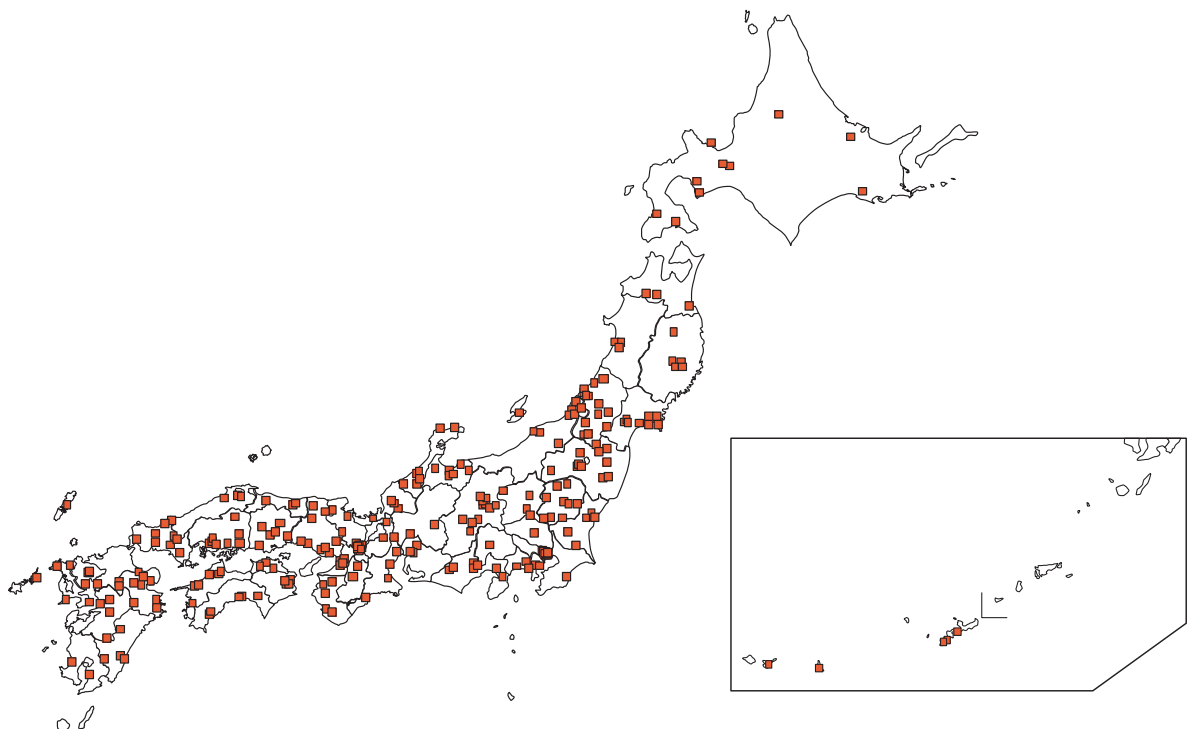
こうした調査研究と併行して、全国の図書館・文庫等に所蔵される原典資料を、マイクロフィルム又はデジタル画像として全冊撮影することによって収集し、一般に提供しています。



これまでの調査・収集件数

調査	国内	1,035箇所	423,171点
	海外	67箇所	16,367点
	計	1,102箇所	439,538点
収集	国内	389箇所	211,975点
	海外	13箇所	1,518点
	計	402箇所	213,493点

全国に散在する日本文学及び関連資料の数は、およそ100万点と推計されており、現在その約20%がフィルム、画像、または原本によって当館で読むことが可能になっています。



## ■ 2019年度調査箇所一覧

### 関東地区

尊経閣文庫

宮内庁書陵部

国立国語研究所

最明寺

### 中部地区

舟津神社

池田三郎

嵐牛俳諧資料館

浜松市立賀茂真淵記念館

### 近畿地区

芭蕉翁顕彰会

中庄新川家

春日大社

大阪天満宮御文庫

### 中国・四国地区

鳥取県立博物館(久松閣文庫)

手銭記念館

正宗文庫

光市文化センター

宇和島伊達文化保存会

高知県立高知城歴史博物館

### 九州・沖縄地区

祐徳稲荷神社(中川文庫等)

諏訪神社(諏訪文庫)

天草上田家

大分県立先哲史料館

### 近代

会津若松市立会津図書館

アドミュージアム東京

星槎ラボラトリー(真山青果文庫)

早稲田大学図書館

山梨大学附属図書館(近代文学文庫)

## ■ 2019年度収集箇所一覧

### 北海道・東北地区

宮城県図書館

### 関東地区

宮内庁書陵部

### 中部地区

嵐牛俳諧資料館

### 近畿地区

芭蕉翁顕彰会

京都市歴史資料館

京都女子大学図書館(蘆庵文庫)

瑞光寺

相愛大学図書館(春曙文庫)

### 中国・四国地区

鳥取県立図書館

手銭記念館

安田女子大学図書館(稻賀文庫)

総本山善通寺

宇和島伊達文化保存会

愛媛大学図書館(鈴鹿文庫)

大洲市立図書館

高知県立高知城歴史博物館

### 九州・沖縄地区

祐徳稲荷神社(中川文庫等)

肥前島原松平文庫

諏訪神社(諏訪文庫)

廣瀬資料館

### 近代

山梨大学附属図書館(近代文学文庫)

### アーカイブズ

真田宝物館(真田家文書)

江川文庫

※所蔵者名敬称略

## 2 資料利用

図書館では、閲覧・文献複写サービスを行っています。遠隔地の利用者でも、図書館間の相互利用制度により、資料の複写等のサービスが利用できます。大学等に所属していない方は、直接郵送・FAX・メールにより複写申込をすることができます。また、電話等による所蔵調査や文書・FAX・メールによる参考質問も受け付けています。



図 書 館

### 利用案内

利用時間	開館時間	平日	9:30～18:00(史料・貴重書の閲覧は9:30～17:30)
		土曜	9:30～17:00(史料・貴重書の閲覧は9:30～16:30)
	書庫資料 閲覧受付	平日	9:30～17:00
		土曜	9:30～16:00
	複写受付		9:30～16:00
休 館 日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・日曜日、祝日・振替休日</li> <li>・第4水曜日</li> <li>・夏季一斉休業日(8月12日から8月14日)</li> <li>・年末年始(12月27日から1月5日)</li> <li>・蔵書点検期間(2月22日から2月27日)</li> </ul> ※その他、都合により臨時に休館・閉館する場合があります。掲示、当館Webページで確認してください。	
サービス	閱 覧	マイクロ資料、和古書(写本・版本)、史料、活字本・影印本、全国の地方史誌、逐次刊行物(土曜日は、史料、貴重書・特別コレクション・寄託資料の閲覧には事前予約が必要)	
	複 写	電子複写(リーダープリンターによる複写も含む)・ポジフィルム(ただし史料は除く)	
	撮 影	史料等、電子複写できない資料	
	貸 出	紙焼き写真本の一夜貸しサービス(一部を除く)	
	展 示 貸 出	図書館、文書館、博物館等への貸出	
	参 考 調 査	所蔵調査・参考質問の受付、回答	
	相 互 協 力	図書館間の相互協力(ILL)による文献複写、資料貸出	
問合せ	電 話	利用について	050-5533-2926 情報サービス係
		相互利用(ILL)	050-5533-2926 //
		歴史資料について	050-5533-2930 //
		資料の掲載について	050-5533-2930 //
	F A X	042-526-8607	
	E-mail	etsuran@nijl.ac.jp	



## 所蔵資料

資料種別		点数等	冊数等
収集マイクロ資料	マイクロフィルム	日本文学	195,097点
		歴史	202件
	マイクロフィッシュ	日本文学	16,667点
	紙焼写真本	日本文学	—
歴史		—	
図書	写本・版本	19,126点	61,934冊
	活字本・影印本等	—	193,955冊
	逐次刊行物	9,247誌	—
所蔵史料		501件	約520,000点
寄託資料・寄託史料	日本文学	12件	9,537冊
	歴史	17件	6,847点

## 代表的な所蔵資料

### 日本文学関係資料

#### 【貴重書】

春日懐紙(重要文化財)、天和2年荒砥屋版『好色一代男』、組合せ絵入り古活字版『曾我物語』、鎌倉期写『新古今和歌集』、奈良絵本『うつほ物語』、『新古今和歌集撰歌草稿』、鎌倉期写『源氏物語』16帖ほか208点

#### 【特別コレクション】

西下経一旧蔵の古今和歌集関係等のコレクション(初雁文庫)、作家中村真一郎旧蔵の江戸、明治の漢詩文集のコレクション(日本漢詩文集コレクション)、『徒然草』ほかのコレクション(高乗勲文庫)、『新古今和歌集』を中心としたコレクション(懐風弄月文庫)、田安德川家伝来の日記・記録、有職故実、文学、芸術関係ほかの典籍類(田安德川家資料(田藩文庫ほか))、明治期の政治家鵜飼郁次郎の収集による書物ならびに文書・記録類(鵜飼文庫)、重要文化財の山鹿素行著述稿本を含む典籍類(山鹿文庫)、『伊勢物語』とその関連書のコレクション(鉄心斎文庫)ほか24件

#### 【寄託資料】

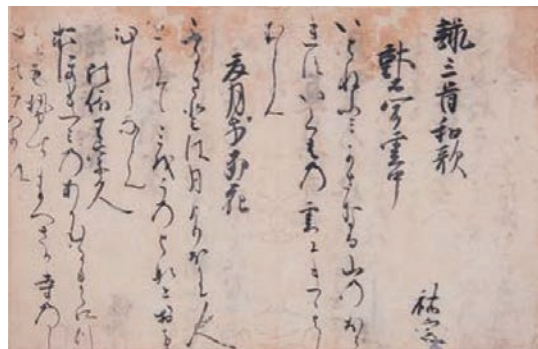
金子元臣旧蔵書6点、松野陽一氏蔵書104点、坂田穩好氏古筆切コレクション145点、増田コレクション6,690枚50箱ほか12件

### 歴史関係資料

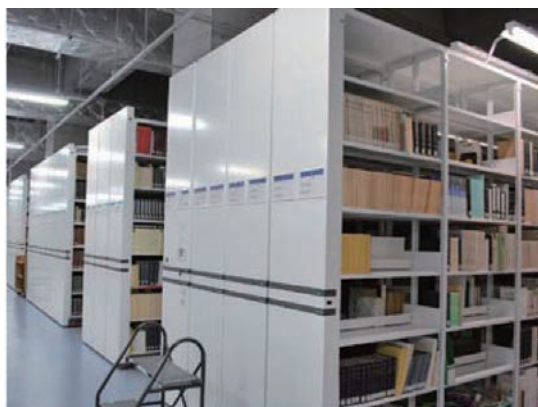
所蔵史料は近世・近代を中心に52万点に及び、地域的にはほとんどの都道府県を網羅している。

近世史料には『尾張国名古屋元材木町犬山屋神戸家文書』『信濃国高井郡東江部村山田庄左衛門家文書』等の町方・村方文書が多数を占めるが、『信濃国松代真田家文書』『阿波国徳島蜂須賀文書』『山城国淀稲葉家文書』等の武家文書、『山城国京都三条西家文書』等の公家文書や『山城国葛野郡嵯峨天龍寺塔頭臨川寺文書』等の寺社文書がある。

近代史料には『愛知県庁文書』『岡山県・広島県・鳥取県下市町村役場文書』等の県庁文書、戸長役場、村役場文書がある。



春日懐紙(当館所蔵)



書庫

### 3 社会連携活動

研究成果を広く社会に還元するため、展示、講演会、シンポジウム、セミナー等、様々なイベントを開催しています。

#### 展示

資料の調査研究や共同研究などで出された成果をもとに、1階に設置されている展示室にて開催しています。

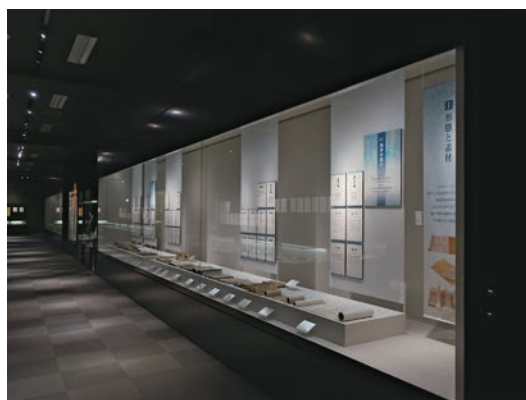
#### 2020年度展示予定

##### 特別展示「ないじえる芸術共創ラボ総合展」

2020年8月3日から9月26日まで開催予定

ないじえる芸術共創ラボ(p20参照)のこれまでの活動の成果(各アーティスト・イン・レジデンス(AIR)、トランスレーター・イン・レジデンス(TIR)による作品のみならず、ワークショップにおける成果や、研究者の知見を含む)を一堂に会した展覧会です。

本展覧会では、古典籍から新しい文化的価値を生み出す、ないじえる芸術共創ラボの活動成果を視覚化するとともに、古典籍とは、誰もがそれぞれの方法でアクセスすることができ、様々な営為と繋げてゆくことのできる文化資源であることを示すことを目的としています。



展示室

##### 企画展示「戦国武将たちの愛した文学—幸若舞曲—」

2020年4月中旬頃から6月末まで開催予定

##### 通常展示「和書のさまざま」

2020年10月中旬頃から2021年3月下旬まで開催予定

和書について、まず形態的に、次に内容的な構成を説明した上で、各時代の写本・版本や特色ある本を紹介します。全体を通して和書の基本知識を学んでいただくとともに、和書について考えるきっかけとなることをも意図しています。

#### 特設コーナー

通常展示開催期間中、展示室の一部のスペースに、特設コーナーを設け、当館の新収資料等を展示しています。

#### 講演会等

##### (1) アーカイブズ・カレッジ

記録史料の保存と利用サービス等の業務を担う専門職員の養成のため、長期コースと短期コースを開催しています。

長期コースは、7月27日(月)～8月7日(金)の間の計6週間、短期コースは10月26日(月)～10月31日(土)に開催を予定しています。



2019年度 アーカイブズ・カレッジ長期コース

## (2) 日本古典籍講習会

国内外の日本の古典籍を扱っている図書館や文庫の司書を対象とし、古典籍の基礎知識・取り扱い等に関する講習会を国立国会図書館との共催で開催しています。

2020年度は6月30日(火)～7月3日(金)に4日間の開催を予定しています。



2018年度 日本古典籍講習会

## 主要出版物一覧

### 当館の紹介など

- 国文学研究資料館概要
- 国文学研究資料館年報
- 国文研ニュース(年2回刊)

### 研究成果

- 国文学研究資料館紀要  
文学研究篇  
アーカイブズ研究篇
- 共同研究成果報告書



国文研ニュース



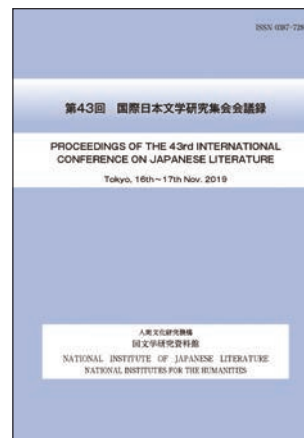
紀要 文学研究篇

### 事業関係

- 調査研究報告
- 史料目録
- 国際日本文学研究集會会議録
- 展示図録



共同研究(特定研究(課題))研究成果報告  
怪力乱神の文学  
一怪異・神秘・混乱一



国際日本文学研究集會  
会議録

# ないじえる芸術共創ラボ アートと翻訳による日本文学探索イニシアティブ

当館では2017年10月より、中長期的な事業として「ないじえる芸術共創ラボ アートと翻訳による日本文学探索イニシアティブ」（「ないじえる」とは当館の英語表記NIJLから）を実施しています。当事業は、当館に所蔵されている豊富な古典籍という文化的資源を、現代社会のニーズに適合した形で積極的に活用することを目的としており、様々な分野のクリエイターを招聘して創作活動を行ってもらうレジデンス・プログラムを実施し、新たな芸術的価値を共創しています。

具体的には、研究者とクリエイターとのワークショップを行い、創作活動を推進するとともに、地方自治体・団体や、民間企業との連携も強化し、成果発信を兼ねたイベント等を開催しています。また、WEBメディア等を通じた事業内容の配信等を行い、日本文化の魅力や、古典籍の新たな利活用の在り方を、国際的に提示・発信しています。

## ● ラボを動かす部門は3つあります。

### ■ アーティスト・イン・レジデンス(AIR)

2017年度から「アーティスト・イン・レジデンス」として、著名な小説家で紫綬褒章受賞者の川上弘美氏、劇作家・演出家・俳優の長塚圭史氏、世界的アニメーション作家で同じく紫綬褒章受賞者の山村浩二氏の3名を招聘し、さらに2018年度から、日本画家の松平莉奈氏、現代芸術家の梁亜旋氏の2名の若手芸術家を招聘しています。アーティストたちが、当館や古典籍の研究者と行うワークショップを通じて、当館所蔵の豊富な古典籍等文化的資産や専門家の知見に触れ、触発しあい、その本質に肉薄することで、既存の文学の枠組みを超えた創作活動を推進し、多くの成果を発信しています。

### ■ トランスレーター・イン・レジデンス(TIR)

「トランスレーター・イン・レジデンス」として、2017年度からピーター マクミラン氏を招聘、研究者たちとの協業やワークショップを通じて、当館所蔵の『扇の草紙』2点に含まれる和歌66首の英訳を完成させました。英語圏のみならず、他言語圏の読者を意識した翻訳、翻訳された作品の海外発信等を通じ、日本文化の国際的発信を目指しています。

### ■ 古典インタプリタ

日本古典文学の専門的知識を有するとともに渉外能力等にも長けた人材として「古典インタプリタ」を配置し、AIR・TIRと研究者との共創の場をサポートします。また、日本古典文学に関し、イベント・講演会やメディアを通じて、広く社会に普及する活動を行うとともに、大学や研究機関のみならず、民間企業や地方自治体等との連携活動を通じて、古典籍の幅広い活用を促進してゆきます。活動の様子はWEB上に掲載している「古典インタプリタ日誌」や、各種SNSなどで随時発信しています。



「ゆめみのえ」完成試写会プレトークの様子(2019年8月25日)  
「ゆめみのえ」の原案となった『雨月物語』や、古典世界における「名画」の捉え方について、古典インタプリタが分かりやすく解説し、作品をより深く楽しむ手立てとした



AIRと当館教員とのワークショップの様子  
左から松平莉奈氏、梁亜旋氏、入口教授、キャンベル館長

## ● AIRの成果

### 川上 弘美 氏 (小説家)

『伊勢物語』の新たな魅力に迫る、約2年にわたる連載小説『三度目の恋』が完結。その執筆活動に大きな示唆を与えた山本登朗氏(関西大学・京都光華女子大学名誉教授)、小山順子氏(京都女子大学教授)と、当館有澤特任助教の進行による、完結記念座談会を行いました。

### 長塚 圭史 氏 (劇作家、演出家、俳優)

江戸後期の絵入り読み物である「黄表紙」や、その代表的作者である山東京伝をモチーフにすえ、長塚氏がこれまで俳優陣と当館入口敦志教授等で続けてきたワークショップを基に、当館閲覧室を舞台とするパフォーマンスの新作短編戯曲「KYODEN'S WOMAN ~アナクロニズムの夢~」が完成しました。

### 山村 浩二 氏 (アニメーション作家)

江戸時代の絵師、鋏形蕙斎の絵手本『略画式』シリーズと上田秋成の読本『雨月物語』を主要モチーフに、当館木越俊介准教授等とのワークショップを通して創作したアニメーション作品「ゆめみのえ」が完成、「山村浩二新作短編アニメーション「ゆめみのえ」完成試写会」を行いました。日本語版語り部は、同じくAIRである長塚圭史氏が、また英訳と英語版語り部は、当館ロバート キャンベル館長がそれぞれ担当、本事業が芸術の異分野を繋げた成果となりました。

### 松平 莉奈 氏 (日本画家)

研究者との協業を通して、黄表紙の時代性、盛衰などの考察を深める松平氏は、現在におけるSNS文化と黄表紙の盛衰を重ね合わせた「作者の手の内夢の内」を制作しました。作者の顔は、円形の穴で表されており、人物の顔を○で現す黄表紙の描写方法を参照すると共に、黄表紙の重要な表現である「穴をうがつ」手法を視覚的に表したものです。

### 梁 亜旋 氏 (現代芸術家)

当館元准教授恋田知子(慶應義塾大学准教授)等とのワークショップを通じて、貴重なことがらや秘事を記すために用いられる卷子本(巻物)という形体への関心から、『百鬼夜行図』をモチーフにしたインスタレーション作品「Ghostly」と、妖怪のキャラクターを作者の独自の画材で表現した絵画「OOOBAKE!」シリーズを制作、その展示と成果発信イベントを松平莉奈氏と合同で開催しました。

## ● TIRの成果

### ピーター マクミラン 氏 (翻訳家)

ピーター マクミラン氏が研究者たちとの協業やワークショップを通じて、当館所蔵の『扇の草紙』2点に含まれるのべ和歌66首の英訳を完成させました。その英訳と併せ、各和訳の日本語版原文、現代語訳、各扇の画像、『扇の草紙』の解説、マクミラン氏による巻頭エッセイを備えたコンテンツを当館WEBサイトより発信する準備を進めています。また、マクミラン氏が凸版印刷(株)に提供した和歌の翻訳から作成されたデジタルコンテンツ「Found in Translation」(日英並記)は、日本文化の特質を現在に生きる日本人のみならず、訪日外国人にとっても容易に日本文化を学ぶことができるものとなっています。

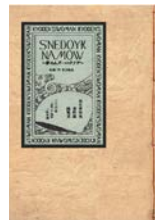


▲重要なモチーフとなった『伊勢物語』写本

▼『三度目の恋』完結記念座談会の様子



▲『金々先生造化夢』



◀演劇パンフレット



▲鋏形蕙斎『鳥獸略画式』

▼「ゆめみのえ」の一場面



「ゆめみのえ」▶完成試写会の様子

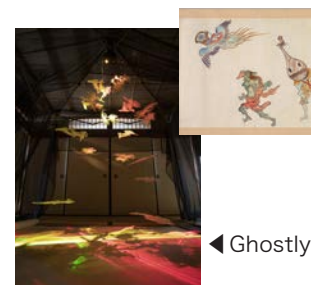


▲『人間一生胸算用』



▲成果発信イベントの様子

▲「作者の手の内夢の内」



◀Ghostly

◀百鬼夜行図



▲成果発信イベントの様子

▼卷子本『阿不幾集』



▲屏風『扇の草紙』



◀デジタルコンテンツを活用し日本文化の魅力を発信する動画より(日英版有り)

# 多摩学術文化プラットフォーム「ぷらっとこくぶんけん」

当館では、多摩信用金庫と協定を締結し、多摩地域における学術・文化の発展に関する事業を継続的に実施するために、当館を中心に企業、自治体、大学等各種団体が構成するプラットフォームとして、多摩学術文化プラットフォーム「ぷらっとこくぶんけん」を設立しました。

「ぷらっとこくぶんけん」の事業として、多摩地域の学術・文化に関する講座、講演会の開催、所蔵資料、データベース等を活用した各団体との連携協力、産学連携の推進を実施していきます。



## 2019年度事業

- 100人ぐりっ首 英語でとる百人一首
- 一冊対談集 クリエーターと語るこの国の古典と現代  
第1回(猪子 寿之×ロバート キャンベル)  
第2回(為末 大×ロバート キャンベル)  
第3回(小倉ヒラク×ロバート キャンベル)
- 『「令和」記念!五感で味わう古典の森事業』  
※公益財団法人東京観光財団の「地域資源発掘型プログラム事業」の取組の一環として実施



『「令和」記念!五感で味わう古典の森事業』  
和本づくり講座

## 会員の募集

「ぷらっとこくぶんけん」では、会員を募集しています。会員登録していただいた団体と連携し、

- 参加団体間でネットワークを構築し、情報の集約・共有活用
  - プラットフォームを活かした当館の広報・情報発信
  - 当館への講演会等の企画提案
  - イベントへの優先的なご案内
- など、さまざまな活動を行って参ります。

【お問い合わせ】 国文学研究資料館 ぷらっとこくぶんけん担当  
E-mail : platform@nijl.ac.jp

# 国際交流

日本の文学は世界中で研究されています。多様な研究の視野と手法を共有して日本の文学を見つめることは、日本文学研究の大切な課題です。このような認識のもとに、当館では国際連携部を設置し、国際交流活動の活性化を図るとともに、国内外における研究集会やシンポジウム、日本古典籍を研究資源としたセミナーを開催するなど、積極的な活動を行っています。

## 1 学術交流協定の締結

日本文学研究の国際的な拠点として、海外の研究機関及び研究者との多様な学術交流事業を積極的に進めています。特に海外機関との学術交流協定を締結することにより、安定的かつ継続的な研究交流が実現できるように努めています。

交流の内容としては、研究者の招聘・派遣、国際研究集会の開催を中心に、共同調査、共同研究の実施、大学院生等の短期研修受入についても構想しています。

現在、以下の海外機関と学術交流協定を締結しています。

- コレージュ・ド・フランス日本学高等研究所(フランス共和国)
- ヴェネツィア大学「カ・フォスカリ」アジア・地中海アフリカ研究学科(イタリア共和国)
- ナポリ大学「オリエンターレ」(イタリア共和国)
- サピエンツァローマ大学イタリア東洋研究学科(イタリア共和国)
- フィレンツェ大学語学・文学・国際文化学部(イタリア共和国)
- 北京外国語大学北京日本学研究センター(中華人民共和国)
- ライデン大学人文学部(オランダ王国)
- プリティッシュ・コロンビア大学文学部アジア研究学科(カナダ)
- コロンビア大学東アジア言語文化学部(アメリカ合衆国)
- 高麗大学校グローバル日本研究院(大韓民国)
- カリフォルニア大学バークレー校C.V.スター東アジア図書館(アメリカ合衆国)
- ベルリン国立図書館(ドイツ連邦共和国)
- バチカン図書館(バチカン市国)
- ハイデルベルク大学日本学科(ドイツ連邦共和国)
- ゲーテ大学フランクフルト・アム・マイン言語学・文化学・芸術学部(ドイツ連邦共和国)
- 大英図書館理事会(イギリス)

## 2 国際日本文学研究集会

本集会は日本文学研究の発展を目的とし、若手日本文学研究者の育成と、国内外の日本文学研究者の交流を深めるため、毎年、秋に開催してきました。次回の第44回からは、より留学生の方にも参加して頂きやすいよう、毎年5月初旬に開催します。第44回の発表募集は2020年秋に行います。また、2020年度からは、留学生や大学院生を対象として、年2、3回の国際日本文学研究ワークショップを実施します。当館の紹介や日本古典籍の扱い方、さまざまなデータベースの活用方法などを学べる場です。



第43回国際日本文学研究集会  
(2019年11月16日～17日)

### 3 海外機関と連携したシンポジウム等

日本文学及び関連領域について、海外の研究者や研究機関と連携し、国際シンポジウム等を開催しています。

#### フォーラム

##### 「東アジアにおける知の往還」第3回—都市という舞台—

2019年10月18日

国文学研究資料館

当館と韓国・高麗大学校グローバル日本研究院との学術交流協定に基づき、企画されたフォーラムです。

今後も当館の学術交流協定先を中心に、こうしたフォーラム等の企画を通じてさまざまな海外機関と協働し、広い視野のもとに継続的な研究交流を展開したいと考えています。



### 4 日本古典籍セミナー

日本文化の礎である古典籍について、海外の研究者や研究機関等と連携し、書誌学や書物文化を中心としたセミナーを開催しています。

第6回 2018年9月6日 カリフォルニア大学バークレー校C.V.スター東アジア図書館（アメリカ合衆国）

第7回 2019年2月26日 北京外国語大学北京日本学研究中心（中華人民共和国）

第8回 2019年3月1日 ハワイ大学マノア校・ホノルル美術館（アメリカ合衆国）



第7回 日本古典籍セミナー



第8回 日本古典籍セミナー

### 5 海外研究者との交流(外国人研究員・外来研究員)

日本文学研究の国際化を促進するために、海外において第一線で活躍する日本文学およびその周辺領域の研究者を外来研究員等として受け入れ、学術資料の利用および人材交流の場として当館を提供しています。

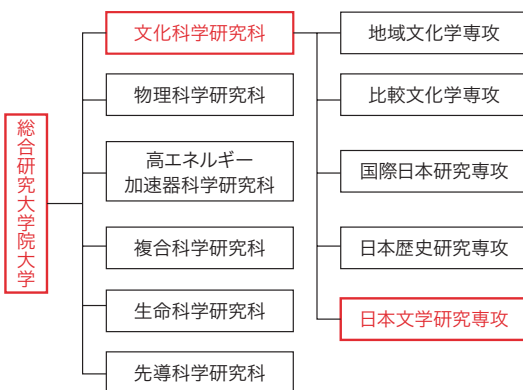


# 大学院教育

## ■ 総合研究大学院大学文化科学研究科 日本文学研究専攻

原本資料調査に基づいた、膨大な学術情報を集積・研究する先導的な大学共同利用機関である国文学研究資料館を基盤機関とする本専攻では、国文学研究資料館の文化資源を活用しながら、日本文学及びその周辺分野における深い専門知識と関連資料の調査技術・総合的な分析能力の修得を柱とする教育を行います。

日本文学を中心に分野に広く目配りした体系的なカリキュラムによる授業を実施するとともに、複数の教員による指導体制のもとに研究指導を行い、高度な専門知識を有した研究者及び研究業績によって社会に貢献できる人材を育成します。



2019年度秋季学位記授与式

## ■ 日本文学研究専攻の特徴

### ● 複数指導体制

教員20余名が広範な教育研究分野から学生をサポートしています。学生の研究課題に応じた指導体制を築くため、学生1人につき主任指導教員1名、副指導教員2名を定め、多角的な観点からきめ細かい指導を行っています。

### ● 充実した教育研究環境

国文学研究資料館の膨大な資料を活用して研究を行うことができます。また、院生室、講義室、談話室など専攻の学生のための施設が充実しています。

### ● 経済的支援

国内外の現地調査、学会発表・聴講などの研究活動の旅費等の支援やリサーチ・アシスタント(RA)への積極的な雇用など、経済的な支援が充実しており、奨学金などと組み合わせることにより研究に専念することができます。

また、館内での資料複写が無料です(上限あり)。希望する図書を購入と図書室への配架も行っています。

## ■ 特別共同利用研究員制度

国公立大学の要請に応じ、大学院における教育に協力するため、1979年度から大学院教育協力制度を発足させ、大学院生の受入れを開始し、1998年度からは特別共同利用研究員として受入れの拡充を図りました。

日本国内の国公立大学大学院の博士課程又は修士課程に在籍し、日本文学、日本史学及びこれらに関連する分野を専攻する者を「特別共同利用研究員」として受入れ、必要な研究指導を行っています。受入人員は5名程度とし、受入期間は、原則として各年4月から翌年3月までの1年間です。

年度	受入人数
2015	9人
2016	7人
2017	2人
2018	2人
2019	6人

# 公開データベース

日本文学及びその関連領域研究のため、当館では様々なデータベースを作成しています。

以下のデータベースを当館ウェブサイトの電子資料館

(<https://www.nijl.ac.jp/search-find/#database>) で公開しています。

図書・雑誌所蔵目録 (OPAC)	当館所蔵の明治期以降の図書、雑誌 (逐次刊行物) の目録。
国文学論文目録データベース	明治21年から現在に至る国文学関係論文の目録。
新日本古典籍総合データベース	「歴史的典籍NW事業」により構築している古典籍のデータベース <sup>※1</sup> 。
日本古典籍総合目録データベース	日本の古典籍の書誌・所在情報を、著作・著者の情報 (典拠情報) とともに提供する総合目録。
館蔵和古書目録データベース	当館所蔵の和古書の目録。
古典選集本文データベース	二十一代集、絵入源氏物語、吾妻鏡、歴史物語、奈良絵本の当館蔵書底本テキストの全文検索と画像閲覧。
所蔵機関との連携による日本古典籍デジタル画像データベース	2011年度科学研究費補助金に基づく広島大学附属図書館所蔵「読本」コレクションの画像公開。
日本古典資料調査記録データベース	当館が調査してきた国内外の写本・版本等の「文献資料調査カード」から主要な書誌情報を抽出。
近代書誌・近代画像データベース	明治期以降の国文学を中心とした文献資料の調査・収集の成果を公開。
収蔵歴史アーカイブズデータベース	史料館旧蔵の資料群を中心とした当館収蔵歴史資料 (アーカイブズ) の概要及び目録を収録。
コーニツキー・欧州所在日本古書総合目録データベース	欧州各国の図書館・美術館・博物館等所蔵の「日本の和装本」の書誌・所在情報。
明治期出版広告データベース	近代日本の出版事情を探ることを目的とし、明治前期の新聞・雑誌等に掲載された出版物の広告を集成。
歴史人物画像データベース	国書古典籍中の絵入り叢伝から、主に明治以前の古典キャラクターの人物画像を収録。また、伝記解題は当館所蔵の典籍やマイクロフィルムに収録される人物伝・人物叢伝の内容の解題と、どんな人物が収録されているかをデータベース化。
連歌・演能・雅楽データベース	連歌データベースと演能データベースを連結し、新規作成の雅楽データベースを添え、セットにして公開。
新奈良絵本データベース	当館所蔵の奈良絵本 (19本) の原本画像を公開 (翻刻付)。
古事類苑データベース	日本の古代から近世までの制度・文物・社会に関する百科事典『古事類苑』大正洋装本のデータベース。
古典学統合データベース (地下家伝・芳賀人名辞典)	日本の古典研究に関わる人物情報を収録。現在、『日本人辞典』と『地下家伝』を搭載。
古筆切所収情報データベース	『古筆切提要』以後に影印刊行された古筆切類の所収情報。
日本文学国際共同研究データアーカイブ	科研費基盤研究 (S) 「国際コラボレーションによる日本文学研究資料情報の組織化と発信」により構築された、海外の研究目録・論文画像・翻訳作品等のデータベースをアーカイブ化。
蔵書印データベース	当館所蔵の古典籍を中心に、原本から採取した蔵書印情報を印影とともに収録。
アーカイブズ学文献データベース	アーカイブズ学に関する国内研究文献データベース。個々の文献で章立てがあるものは「内容」に全て採録。
史料情報共有化データベース	国内外で公開されている資料群 (アーカイブズ) 情報 (歴史資料を公開する各収蔵機関による共同構築)。
日本実業史博物館コレクションデータベース	日本実業史博物館準備室旧蔵資料のうち絵画・器物・広告・文書・書籍の資料情報と画像を公開。
館蔵社寺明細帳データベース	当館所蔵の戦前期における全国の神社明細帳に関する神社名・所在地・社格等を収録。
伊豆菰山江川家文書データベース	財団法人江川文庫が所蔵する古文書・文芸関係の目録情報を同文庫との協業により公開。
史料所在情報データベース	国内各地に伝来する資料群の所在・概要情報 (詳細版は利用登録制)。
増田太次郎広告コレクションデータベース	増田太次郎氏が収集した広告類の主要部分の書誌情報・画像を公開。
近世語彙カードデータベース	歌舞伎・浄瑠璃用語など約15万枚の近世語彙カードのデータベース。
在外日本古典籍所蔵機関ディレクトリ	日本の古典籍を所蔵する日本国外の機関の連絡先、閲覧の可否等の情報を英語 (一部日本語も有) で提供。
断本大系本文データベース	『断本大系』 (東京堂出版刊) の全文検索。
日本古典文学大系本文データベース	旧版『日本古典文学大系』 (岩波書店刊) の全文検索 (大学・短大以上の高等教育機関などに対して公開)。
マリオ・マレガ資料データベース	マリオ・マレガ収集のキリシタン関係文書およびマレガ資料等の目録・画像を公開。

2020年4月1日現在

※1 新日本古典籍総合データベースについては、9頁をご覧ください。

※2 学術情報リポジトリについては、こちらをご覧ください。 <https://kokubunken.repo.nii.ac.jp>

# 教員一覧 (2020年4月1日現在)

## 館長

氏名	研究内容
ロバート キャンベル Robert CAMPBELL	日本文学 (近世から明治の文学およびそれに関連する芸術・思想・メディアなど)

## 研究部

氏名	職名	研究内容
山下 則子 YAMASHITA Noriko	教授 副館長 (企画調整担当)	近世文学・芸能の研究。特に絵本・浮世絵を対象とし、四世鶴屋南北作歌舞伎の作品研究も行う。
神作 研一 KANSAKU Ken-ichi	教授 副館長 (研究担当)	日本近世文学、特に和歌史・学芸史の研究
入口 敦志 IRIGUCHI Atsushi	教授 (研究主幹)	近世文学研究
海野 圭介 UNNO Keisuke	教授 (研究主幹)	中世文学・和歌文学の研究、禁裏公家を中心とした古典学に関する研究
山本 和明 YAMAMOTO Kazuaki	教授 (研究主幹)	19世紀文学の研究
渡辺 浩一 WATANABE Koichi	教授 (研究主幹)	近世都市の社会構造、アーカイブズ史
大友 一雄 OTOMO Kazuo	教授	近世日本の記録管理、アーカイブズの歴史
落合 博志 OCHIAI Hiroshi	教授	中世文学・中世芸能の研究、古典籍書誌学の研究
齋藤 真麻理 SAITO Maori	教授	中世文学の研究
藤實 久美子 FUJIZANE Kumiko	教授	日本近世・幕末維新期の政治文化の研究。書籍史料論の構築
相田 満 AIDA Mitsuru	准教授	中古・中世日本文学、幼学書を中心とする学問・注釈学、説話文学、人文情報学
青木 睦 AOKI Mutsumi	准教授	史料保存に関する研究
青田 寿美 AOTA Sumi	准教授	日本近代文学、特に明治大正期の評論・小説の研究
太田 尚宏 OTA Naohiro	准教授	近世日本における地域行政の研究、近世史料学の研究
加藤 聖文 KATO Kiyofumi	准教授	近代以降の東アジアと日本との関係
木越 俊介 KIGOSHI Shunsuke	准教授	日本近世文学、特に小説史の研究
ダヴァン ディディエ DAVIN Didier	准教授	中世仏教と文学
西村 慎太郎 NISHIMURA Shintaro	准教授	近世日本における天皇・朝廷・身分研究、民間所在資料の保存・利活用に関する研究
野網 摩利子 NOAMI Mariko	准教授	日本近代文学、長編小説の研究、日本近代における東西古典の受容
野本 忠司 NOMOTO Tadashi	准教授	国文学研究における情報利用の高度化に関する研究
山本 嘉孝 YAMAMOTO Yoshitaka	准教授	日本漢文学、特に江戸・明治期の漢詩文

氏名		職名	研究内容
江戸 英雄	EDO Hideo	助教	中古文学、特に物語文学の研究
岡田 貴憲	OKADA Takanori	助教	平安時代物語・日記文学の研究
ノット ジェフリー	KNOTT Jeffrey	助教	中世における古典学・古典文学の受容史研究
有澤 知世	ARISAWA Tomoyo	特任助教	日本近世文学、特に江戸戯作の研究
糸 汐里	KUME Shiori	特任助教	中世末期・近世初期の日本の語り物文芸(幸若舞曲、説経、古浄瑠璃)の研究

## ■ 古典籍共同研究事業センター

氏名		職名	研究内容
山本 和明	YAMAMOTO Kazuaki	センター長(併任)	19世紀文学の研究
北村 啓子	KITAMURA Keiko	准教授	人文科学分野を対象とする情報科学理論の研究
宮本 祐規子	MIYAMOTO Yukiko	特任准教授	日本近世文学、特に小説・演劇の研究
井黒 佳穂子	IGURO Kahoko	特任助教	中世から近世初期にかけての絵巻・絵入り本に関する研究
松田 訓典	MATSUDA Kuninori	特任助教	人文学におけるコンピューター利用に関する研究

# 参考データ

## 職員・予算・施設(2020年度)

職員	(単位：人)	予算	(単位：千円)	施設	(単位：m <sup>2</sup> )
館長	1	収入	1,291,520	建物面積 専有面積	13,002
教授	10	運営費交付金	1,286,984	上記の内	
准教授	12	自己収入	4,536	閲覧室	1,584
助教	3	支出	1,291,520	書庫・収蔵庫	2,416
特任准教授	1	教育研究経費	783,708	展示室	355
特任助教	2	一般管理費	507,812		
事務系職員	42				
合計	71				

## 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金/科学研究費補助金)(2020年度)

研究種目	応募区分	研究代表者	研究課題名	研究期間
基盤研究(A)	一般	今西 祐一郎	日本古典籍における表記情報学の発展的研究	2015～2020
基盤研究(A)	一般	相田 満	日本における「生き物供養」「何でも供養」の連環的研究基盤の構築	2016～2020
基盤研究(A)	一般	加藤 聖文	アーカイブズによる「地域力」再生と持続的社会的基盤創成研究	2019～2022
基盤研究(A)	海外学術調査	大友 一雄	バチカン図書館所蔵豊後切支丹資料の国際的情報資源化に関する海外学術調査研究	2016～2020
基盤研究(B)	一般	渡辺 浩一	自然と人間の相互関係としての近世都市災害研究	2018～2022
基盤研究(B)	一般	海野 圭介	金剛寺摩尼院聖教の調査を基盤とした日本中世の宗教的知の流通と蔵書形成に関する研究	2019～2022
基盤研究(B)	一般	齋藤 真麻理	中近世日本の画題生成における明代出版文化の受容と展開に関する総合的研究	2020～2022
基盤研究(B)	一般	藤實 久美子	維新政権期の木版刊行物に関する学際的研究およびオープンサイエンスの推進	2020～2023
基盤研究(C)	一般	齋藤 真麻理	中近世日本における画題享受史の構築	2017～2020
基盤研究(C)	一般	岩橋 清美	江戸考証家の古器物収集に見る歴史意識の特質とネットワークに関する研究	2017～2020
基盤研究(C)	一般	ダヴァン ティエ	禅僧仮名法語の思想的なマッピング	2018～2020
基盤研究(C)	一般	神作 研一	歌書を中心とした江戸時代の絵本と絵入本に関する基礎的研究	2019～2021
基盤研究(C)	一般	武井 協三	『弘前藩庁日記』演劇上演記録の研究—享保期座敷芝居の解明—	2019～2021
基盤研究(C)	一般	三野 行徳	近代移行期、蝦夷地・北海道分領支配に関する歴史情報の復元的研究	2019～2021
基盤研究(C)	一般	山下 則子	鶴屋南北作歌舞伎における近世中期学芸の研究—異分野融合と社会還元を視野に—	2020～2024
基盤研究(C)	一般	木越 俊介	地誌・奇談にみる19世紀型(知)の再編と享受	2020～2023
基盤研究(C)	一般	小林 健二	江戸時代前・中期における能狂言を題材とした絵画資料の調査と研究	2020～2023
挑戦的研究(開拓)		青田 寿美	蔵書印データベースの高次利用に向けた情報拡充と篆字学習インターフェイスの開発	2018～2021
挑戦的研究(萌芽)		相田 満	『古事類苑』の共有と近代古典学の解析のための基礎的研究	2019～2021
若手研究		山本 嘉孝	木下順庵の漢詩における盛唐詩受容の研究	2018～2021
若手研究		館野 文昭	鶴屋系歌学書の検討を軸とした秘伝的歌学書・歌学知の生成と展開に関する研究	2018～2020
若手研究		有澤 知世	考証趣味のネットワークと戯作との関わりを手掛かりとした近世後期文芸の研究	2018～2021
若手研究		黄 昱	説話に見られる日中動物観の比較研究—『太平広記』と『夷堅志』、『夷堅志和解』	2018～2020
若手研究		宮本 祐規子	西鶴以降の前期小説と芸能・絵画との交流をめぐる発展的研究	2019～2022
若手研究		岡田 貴憲	平安時代日記文学の生成・受容実態についての研究	2019～2022
若手研究		井黒 佳穂子	『玉水物語』にみる種と性の越境	2019～2021
若手研究		糸 汐里	〈判官物〉の語り物の基礎的研究—幸若舞曲・説経・古浄瑠璃の影響関係の究明	2019～2022
若手研究		高見 純	16世紀イタリア都市における福祉と兄弟会：アーカイブズの形成と財政的展開から	2019～2020
若手研究		幾浦 裕之	近世における阿仏尼像の享受と生成	2020～2021
研究活動スタート支援		ノット ジェフリー	室町後期における連歌師の講釈・注釈活動による源氏学の伝播と変容に関する資料的研究	2019～2020
特別研究員奨励費		田部 知季	明治俳句表現史の研究—近代俳句データベースの構築を見据えて—	2019～2021
特別研究員奨励費		上田 哲司	アイヌ史構築のための基礎作業としてのアイヌ人物史的研究 蝦夷地一次幕領期を中心に	2020～2022
特別研究員奨励費		高尾 祐太	中世の知と文芸—『性霊集』古注釈書の調査・収集と研究を中心として—	2020～2022
国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))		神作 研一	在米日本古典籍(リチャードレインコレクション)の調査研究と教育活用に関する研究	2018～2021
国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))		加藤 聖文	日ソ戦争アーカイブズ構築に関する日露共同研究	2018～2021
研究成果公開促進費(学術図書)		相田 満	観相の文化史	2020
研究成果公開促進費(学術図書)		館野 文昭	中世「歌学知」の史的展開	2020
研究成果公開促進費(学術図書)		岡 雅彦	江戸時代前期出版年表(万治元年～貞享五年)	2020
研究成果公開促進費(データベース)		山本 和明	所蔵機関との連携による日本古典籍デジタル画像データベース	2016～2020
研究成果公開促進費(データベース)		青田 寿美	明治前期出版広告データベース	2017～2021
研究成果公開促進費(データベース)		神作 研一	日本古典籍総合目録	2020～2024

(2020年4月24日現在)



大学共同利用機関法人  
**人間文化研究機構**  
National Institutes for the Humanities  
<https://www.nihu.jp/>

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構(略称:人文機構)は、4つの大学共同利用機関法人のうちの一つであり、人間文化研究にかかわる6つの大学共同利用機関で構成されています。それぞれの機関は、人間文化研究の各分野におけるわが国の中核的研究拠点、国際的研究拠点として基盤的研究を深める一方、学問的伝統の枠を超えて相補的に結びつき、国内外の研究機関とも連携して、現代社会における諸課題の解明と解決に挑戦しています。真に豊かな人間生活の実現に向け、人間文化の研究を推進し、新たな価値の創造を目指します。

### 研究推進・情報発信事業

人文機構は、2016年度に総合人間文化研究推進センターと総合情報発信センターを設置しました。

2つのセンターでは、6つの機関をハブとした研究ネットワークを構築して国際共同研究を推進するとともに、国内外への積極的な発信や次代を担う若手研究者の育成に取り組めます。

#### 総合人間文化研究推進センター

6つの機関と国内外の大学等研究機関や地域社会との連携・協力を促進し、人間文化の新たな価値体系の創出に向けて、現代的諸課題の解明に資する組織的共同研究「基幹研究プロジェクト」を推進しています。

#### 総合人間文化研究推進センターが推進する基幹研究プロジェクト

機関拠点型	総合資料学の創成と日本歴史文化に関する研究資源の共同利用基盤構築
	日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワークの構築
	多様な言語資源に基づく総合的日本語研究の開拓
	大衆文化の通時的・国際的研究による新しい日本像の創出
	アジアの多様な自然・文化複合に基づく未来可能社会の創発
広領域連携型	人類の文化資源に関するフォーラム型情報ミュージアムの構築
	日本列島における地域社会変貌・災害からの地域文化の再構築
	アジアにおける「エコヘルス」研究の新展開
ネットワーク型	異分野融合による「総合書物学」の構築
	地域研究推進事業：北東アジア、現代中東、南アジア
	日本関連在外資料調査研究・活用事業： ヨーロッパにおける19世紀日本関連在外資料調査研究・活用 パチカン図書館所蔵マリオ・マレガ取集文書調査研究・保存・活用 北米における日本関連在外資料調査研究・活用 プロジェクト間連携による研究成果活用

#### 4つの大学共同利用機関法人



#### 人文機構本部と6つの大学共同利用機関の所在地



#### 総合情報発信センター

人間文化にかかわる総合的学術研究資源をデジタル化することで、広く国内外の大学や研究者への活用を促進するとともに、社会との双方向的な連携を強化することで、研究成果の社会還元を推進しています。

#### 総合情報発信センターの情報・発信事業

研究資源高度連携事業 nihuINT <a href="https://int.nihu.jp">https://int.nihu.jp</a> 機構内外の情報資源を統合検索する、人間文化研究データベース
情報発信事業 リポジトリ <a href="https://www.nihu.jp/ja/publication/database#repo">https://www.nihu.jp/ja/publication/database#repo</a> 国際的に研究成果を発信するため各機関でリポジトリを公開 研究者データベース <a href="http://nrd.nihu.jp">http://nrd.nihu.jp</a> 機構所属の研究者情報を一元的に公開する研究者データベース運用 国際リンク集 <a href="https://guides.nihu.jp/japan_links">https://guides.nihu.jp/japan_links</a> 日本文化研究情報への総合的アクセスを支援するためのリンク集を構築し運用 NIHU Magazine <a href="https://www.nihu.jp/ja/publication/nihu_magazine">https://www.nihu.jp/ja/publication/nihu_magazine</a> 機構の最新の研究活動、成果を海外に発信するウェブマガジン
人文機構シンポジウム <a href="https://www.nihu.jp/ja/event/symposium">https://www.nihu.jp/ja/event/symposium</a> 第36回 「海外で《日本》を展示すること - KIZUNA 展からその意義を探る -」 第37回 「この世のキーワード-自然と超自然のはざま」 第38回 「～コンピュータがひもとく歴史の世界～ デジタル・ヒューマニティーズってなに?」
社会連携事業 産業界や外部機関と連携し、研究成果の社会還元を推進 ・味の素の文化センターと共催でシンポジウムを開催 ・大手町アカデミアと連携し、特別講座を開催

## 歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業

機構(主導機関: 歴博)、東北大学、神戸大学を中核として、全国各地の主に大学を中心に活動する「資料ネット」との連携構築を通じて、資料調査とデータ記録化、広域的相互支援体制の確立、資料保存研究等の歴史文化資料保全事業を推進します。さらに資料を活用した研究や教育プログラム開発、国内外に向けた情報発信を通じて、地域社会における歴史文化の継承と創成を目指します。

## 博物館・展示を活用した最先端研究の可視化・高度化事業

機構の6機関と大学等研究機関とが連携し、博物館および展示を活用して人間文化に関する最先端研究を可視化し、多分野協業や社会との共創により研究を高度化して新領域創成を図る研究推進モデル「博物館・展示を活用した最先端研究の可視化・高度化サイクル」を構築します。また本事業においては、大学等におけるカリキュラムの提案・実践を行うとともに、研究展示・映像・フォーラム等の企画・制作・運営を通じて「人文知コミュニケーター」を育成し、社会の課題と向き合う新たな知の構築を目指します。



2019年度大学共同利用機関シンポジウムにおけるモバイルミュージアムの展示(於: 日本科学未来館)

## 人文知コミュニケーター

展示など多様な発信媒体、機会を活用して人間文化研究の成果をわかりやすく社会に伝えるとともに、研究に対する社会からの要望、反響を吸上げ、研究現場に還元するスキルを有した研究者として、「人文知コミュニケーター」の組織的育成事業を実施しています。研究者と社会を「つなぐ人」として、社会連携や共創を推進し、人文学の振興、発展に貢献します。



人文知コミュニケーターによる学習支援ツールの開発(於: 日本科学未来館)

## 社会連携

地域社会や産業界などと連携し、人間文化研究成果の社会還元を推進しています。令和元年度は、大手町アカデミア(YOMIURI ONLINE、中央公論新社)において、機構の研究者を講師とする特別講座を開催しました。

- ・「人類は何を食べてきたか?—フィールドワークから探る肉食の30万年」(2019年12月4日開催)
- ・「食べるフィールド言語学—「Food×風土」の視点から」(2020年2月13日開催)



大手町アカデミア人文機構特別プログラム  
(於: 読売新聞東京本社、写真提供: 大手町アカデミア)

## 大学院教育

国立大学法人総合研究大学院大学(総研大)の基盤機関として、文化科学研究科に4つの機関が各機関の特色を生かした5つの専攻(博士後期課程)を設置し、高い専門性と広い視野を持った研究者を養成しています。また、機構の6つの機関では、他大学の大学院生を受け入れてその研究を支援するなど、次世代を担う人材育成に貢献しています。

総研大文化科学研究科の各専攻

- 地域文化学専攻(民博)
- 比較文化学専攻(民博)
- 国際日本研究専攻(日文研)
- 日本歴史研究専攻(歴博)
- 日本文学研究専攻(国文研)



## 交通のご案内

### 多摩都市モノレール利用の場合

JR立川駅下車、多摩モノレール立川北駅に乗り換え、高松駅下車、徒歩10分

### 立川バスの場合

JR立川駅北口2番のりば乗車、「立川学術プラザ」バス停下車、徒歩1分

JR立川駅北口1番のりば乗車、「立川市役所」バス停下車、徒歩3分

JR立川駅北口2番のりば乗車、「裁判所前」バス停下車、徒歩5分

### 徒歩の場合

JR立川駅下車、徒歩約25分

### 自動車利用の場合

中央自動車道「国立府中IC」から約15分

※無料駐車場あり

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構

# 国文学研究資料館

〒190-0014 東京都立川市緑町10-3

TEL: 050-5533-2900

FAX: 042-526-8604

<https://www.nijl.ac.jp/>

**National Institute of Japanese Literature (NIJL)**  
**National Institutes for the Humanities**

Address: 10-3 Midori-cho, Tachikawa city, TOKYO 190-0014, Japan

TEL: +81-50-5533-2900

FAX: +81-42-526-8604